

P11b L1457における新たな T Tauri 型星の発見

小倉勝男(国学院大)、杉谷光司(名古屋市立大)、伊藤洋一(神戸大)、田村元秀(国立天文台)、T. Magakian、T. Movsessian (Byurakan Astrophysical Observatory, Armenia)

L1457 (MBM 11/12) は距離が $65 pc$ と、最も近距離にある T association を含む分子雲とされている(距離は $280 pc$ とする観測結果も最近だされたが)。TW Hya グループも同程度の至近距離にある T association だが、この方はすでに分子雲は散逸してしまっている。L1457 領域には 30 年ほど前から classical T Tauri star (cTTS) が 3 星 (LkH α 262-264) 知られ、近年になってさらに cTTS が 1 星と weak-line T Tauri star (wTTS) が 2 星発見された。我々はこの天域において形成された若い星々のさらなる検出を目指して、H α 輝線星の探索をし、かつ検出された星(の一部)に対して follow-up のスリット分光観測を行ったので、その結果をここに報告する。

H α 輝線星のサーベイ観測は Byurakan Astrophysical Observatory (Armenia) の 2.6-m 望遠鏡にグリズム分光器 BYUFOSC を取りつけて行った。探査範囲は 1.8 平方度、限界等級は $R \sim 18$ mag である。その結果、H α 輝線星が 5 個発見された。1 星は cTTS といえる H α 輝線強度を示すが、他はその等価巾が 10 Å 以下で、wTTS である。このうちの 3 星に対してスリット分光観測を Mauna Kea の UH2.2-m 鏡と中分散分光器 HARIS の組合せによって行った。これらの星はスペクトル型がいずれも M3 前後であり、リチウム I $\lambda 6708$ 吸収線もみられる。その等価巾も前主系列星にほぼ相応しい大きさを示していて、この T association のメンバーであることが確認できた。2 星については残念ながら観測もれとなった。

これらの極めて重要な星々に対してすばるや野辺山電波干渉計によってさらなる観測がなされつつある。